



2019.3
ぶちまきらい

地方創生☆政策アイデアコンテスト2018
地方創生担当大臣賞受賞

山口県立豊北・下関北高等学校 清水麻衣子さん、川瀬徳子さん



▲最終審査会でのプレゼンテーションの様子
(平成30年12月15日)

私たちの自慢の町
豊北町から
魅力発信！

最優秀賞
地方創生担当大臣賞受賞！

優れた地域活性化のアイデアを競う、内閣府主催の政策コンテスト「地方創生☆政策アイデアコンテスト2018」で市内の観光イベント開催による地域の活性化を提案し、高校生以下の部で最優秀賞の地方創生担当大臣賞に輝いた山口県立豊北・下関北高等学校。今回は、このプロジェクトの中心として活動し、学校の代表してプレゼンテーションを行った、清水さん、川瀬さんをご紹介します。



このコンテストは、データに基づく地方創生の取り組みを推進するため、「地域経済分析システム(DESAS)」を活用して地域を分析し、地域を元気にする政策アイデアを募集するものです。

豊北・下関北高等学校の政策アイデアは、全国から応募のあった高校生以下の部228件、大学生以上一般の部604件の中から、地方予選会を通過し、見事、最終審査8組(高校生以下の部4組、大学生以上一般の部4組)に選ばれました。

「ハロウィンかぼちゃで交流振興・生産振興〜角島大橋ハロカぼランタンライトアップ〜」

地方都市の共通の課題である深刻な人口減少、少子・高齢化。彼

私たちの高校のある豊北町は、下関市でも特にその課題が顕著です。しかし豊北町には山口県内でも有数の集客力を誇る「角島大橋」など魅力あふれる観光資源があります。

RSASのデータによると、傾向として首都圏や近隣大都市から観光客が多いこと、冬の観光客・宿泊客が少ないことが分かりました。

そこで、近年都市部で流行している「ハロウィン」に注目しました。町のシンボルでもある角島大橋をハロウィンかぼちゃでライトアップする。さらに、一過性のイベントにならないように、農業が主要産業で、県内では花卉どころでもある地域の特色を生かし、かぼちゃのお茶、コーヒー、ワインなどの商品開発、また、ランタンづく

アイデアは、 地域を巻き込むことで 政策になる。

りなどの体験イベントなどを通じて、若年層の特別な時間や体験、思い出、人間関係に価値を見いだす。コト消費を刺激するなど、観賞用のかぼちゃの需要を生み出し、生産振興につなげ、地域の人口減少に歯止めをかける取り組みにつなげるプロジェクトを考えました。

高校生県議会での提案など行政への働き掛けや、地元の方の協力により、ハロウィンかぼちゃの栽培も行いました。データを見て考

えるだけでなく、実際に自分たちでかぼちゃを育て、ランタンを作り、イベントを開催する。既にあるデータだけでは見えない問題点も見えてきます。

町の魅力、町の誇り、未来への力

学校の代表として、審査員の前でプレゼンテーションを行った二人。「普段から地域の方にお世話になっているので豊北町を全国に発信できてうれしかったです。これを第一歩として、これからもいろんなことに取り組んでいきたい」と清水さん。「自分たちが考えたアイデアが、最優秀賞という形で評価されてうれしかった。角島大橋のライトアップを実際に行って成功させてみたいです」と川瀬さん。

施設やイベントだけでなく、自分たちの生まれ育った町のことを考え、行動に移す若い力がこの町の一番の魅力です。若者が自分の町を誇れることが、何よりも地域を元気にします。

彼女たちの挑戦は始まったばかり。今後の活動に期待が寄せられます。



▲(上)校内でハロウィンかぼちゃの制作をしました
(下)道の駅ランタンコンテストの様子

